



ふみゆだより

10周年特集号



社会福祉法人瑞穂会

ふあみいゆ行田 10 周年 お祝いのことば

行田市長 工藤正司

社会福祉法人瑞穂会「特別養護老人ホームふあみいゆ行田」が、開設 10 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴法人は、平成 18 年 2 月に特別養護老人ホームふあみいゆ行田を開設 以来、短期入所、居宅介護支援、デイサービスなどの事業を展開されてこられました。さらに、平成 24 年 4 月には地域包括支援センターを開設するとともに、平成 26 年 5 月には訪問介護事業を開始されるなど、地域における高齢者福祉の担い手として、名実共に確固たる地位を築きあげてまいりました。



これもひとえに、小嶋理事長をはじめ、施設長や職員、関係者の皆様方の並々な熱意とご尽力の賜物であり、深く敬意を表するものでございます。

現在、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に向け、地域の特性を活かした医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供していく地域包括ケアシステムの構築が急務となっております。今後、本市といたしましては、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の確立に全力で取り組んでまいります。

貴施設におかれましては、これまで培われてきた豊富な経験や知識を踏まえ、今後とも、地域福祉の中核として福祉行政へのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、開設 10 周年を契機に、貴施設がますます発展されますことを心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



忍城（おしじょう）
埼玉県行田市

開設 10 周年によせて

埼玉県議会議員 鈴木聖二

開設 10 周年を心からお祝い申し上げます。
それにしても余りにも早い 10 年だった気がいたします。
開設オープンの式典にお招きいただいたのが、まだ最近のことにように鮮明に記憶に残っています。

明るく素晴らしい笑顔のスタッフの皆さん、温かい人間味あふれる理事長、そして施設長さん。施設を取り巻く、静かな田圃風景、こんな素晴らしい施設に入所される方々は、うらやましいなと感じておりました。

あれから 10 年、理事長さんを始め、スタッフの皆さんの笑顔・優しさ、そして美しい田圃風景は、少しも変わっていないことに、改めて感動をおぼえます。

今、埼玉県の福祉環境は、全国でも極めて遅れた状況にあります。そんな中で、最も素晴らしい「ふあみいゆ行田」さんに、これからも福祉の「お手本・モデル」として頑張っていてもらいたいと強く期待をいたします。



開設 10 周年 お祝いのことば

行田市市議会議長 平社輝男

特別養護老人ホーム「ふあみいゆ行田」の開設 10 周年にあたり、心からお喜びを申し上げます。

貴法人におかれましては、平成 18 年の開設当初から、「利用者一人ひとりの人権と尊厳を守り、『生きていて本当に良かった』といただける暮らしの実現」に向け、老人福祉の拠点として、大きな役割を果たされてきたところであります。

開設以来、きめ細やかなサービスの提供に努力を重ねられ、高齢者とその家族の皆様の支えとなり、地域に信頼される施設として今日まで高い評価を得てこられました。

また、地域住民との交流や保育園併設を活かした園児との交流など、入所者の心のケアや生きがいがづくりに取り組まれ、地域密着型の施設として厚い信頼を得られております。

この間、運営に尽力されました理事長をはじめ、昼夜を問わず介護に取り組まれた職員など、関係者のご努力は計り知れないものがあり、ここに敬意と感謝を申し上げる次第であります。

高齢化や人口減少の更なる進行など、高齢者介護を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、開設 10 周年を契機として、これまで培ってこられたノウハウや経験を活かして今後ますます多様化するニーズに応え、地域の老人福祉の向上に更に貢献していかれることを切に期待いたします。

おわりに、貴施設の益々のご発展とご利用者、ご家族、施設関係者のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



ふぁみいゆ行田 10 年を振り返って

理事長 小嶋悦雄

本年 2 月ふぁみいゆ行田は恙なく開設 10 周年を迎えることができました。多くの関係者の方々から寄せられた暖かいご指導とご協力の賜物であり、厚くお礼申しあげます。

ふぁみいゆ行田の現在は、介護老人福祉施設ふぁみいゆ行田を拠点に 6 事業を併設する複合施設です。これらの事業は各々の機能を発揮しながら、ふぁみいゆ行田が掲げる運営理念の実現に向けてサービス活動を続けております。



ここでは、拠点事業ふぁみいゆ行田 10 年の歩みを振り返りたいと思います。

瑞穂会が老人福祉施設整備計画の意思決定をしたのは平成 9 年でした。

当時の埼玉県老人福祉政策の壁、就中、利根北圏域における特養ホーム充足率 120%の壁は高く、見通しの立たない 7 年が経過しました。上田清司新知事の誕生に伴い老人福祉政策の全面的見直しが行なわれ、その年、暖めていた整備計画が採択されたことは僥倖でしたが、青天に霹靂を見る年でもありました。「小規模生活単位型特別養護老人ホーム」の制度化を受け、多床室を特徴とする従来型から、個室・ユニットケアを基本とする新型特養へ施策の舵が切り替えられた年で、特養の歴史始まって以来の転換の年といわれる所以です。

何故新型でなければならないのか？ 限られた時間の中で、厚労省が個室・ユニットケア制度化に先んじて研究委嘱した京都大学大学院外山研究室の「個室・ユニットケア報告書」を読み返すことになりました。

「個室・ユニットケアで介護が変わる」、「個室・ユニットケアは人間尊重の理念に照らしてあるべき介護サービス」、「現時点で考えられる最もヒューマンなサービス」などなど。

ハード（設計）を変えることでソフト（ケア）が変わる… いかにも建築家集団らしい発想ですが、個室化が処遇内容に及ぼす影響の底知れない深さ、広がり学ぶよい機会になったように思います。

ふぁみいゆ行田は、3 つの運営の基本理念を掲げて平成 18 年 2 月開設しました。

- ① 利用者一人ひとりの人権と尊厳を守り、満足度を追求します。
- ② 「生きていて本当によかった」と言っただけの暮らしを追求します。
- ③ 老人福祉の拠点として、地域福祉サービスの提供に努めます。

ふぁみいゆ行田開設当初の介護職員は、当然のことながら従来型特養の経験者が大半でした。「こんな介護はおかしい」「どこの特養でもやっていない」戸惑いと困惑、試行錯誤のなかで、多床室ケアと個室・ユニットケアの違いに気付いたことだけがわずかな収穫でした。あれから 10 年…実践、体験、学習、創意工夫を通して、新型特養のメリットを個室・ユニットケアに生かし、進化（深化）・成長させてきた過程が手に取るように甦ります。職員総会におけるユニットケア発表も専門委員会の発表も、経年密度を濃くしています。

ふぁみいゆ行田の個室・ユニットケアは、明るさ、優しさ、細やかさ、において年次向上を続けていますが、その懐はどこまでも深く広いものであることは前述したとおりです。利用者一人ひとりに寄り添い、人権と尊厳を守り、意向を尊重し、安心・安全の充実した生活の提供を通して「生きていて本当によかった」と言っただけの純度の高い個室・ユニットケアの追求に向けて、弛みない努力を尽くして行かなくてはならないと思っています。

一人ひとりに寄り添った介護を目指して

施設長 藤井尚子

見渡す限りの田園地帯を背景にふぁみいゆ行田は新型ユニット型特養として誕生しました。北に日光連山、西に赤城、榛名、浅間山、南西に富士山、東には筑波山、四方の名峰を一望できる関東平野の真ん中に位置し、高齢者の日々の暮らしに四季の彩を添えられることは、大変恵まれた環境だと思います。また、周辺の小中学校の生徒さん、保育園の可愛い園児さん、福祉養成校の学生さん、地域の方々やボランティアの方々、行政や関係機関の皆様から温かいご支援と心温まる交流を図っていただいております、心より感謝申し上げます。



開所当時、個室ユニット型特別養護老人ホームは、周囲でも数が少なく、スタッフの誰一人ユニットケアを経験したことのない中でスタートしました。従来型の介護に慣れていた介護職員にとって個別ケア（ユニットケア）をどのように受け入れ、実行に移すかは大変高いハードルでした。3年を経過しても尚、ユニットケアはなかなか浸透しなかったため、介護職員全員に他県で先導的に実践していたユニット型施設を見学してもらうという試みを実行したところ、職員のユニットケアに対する意識が変わり始めました。その後、施設ケア課長を中心として、看取り介護の導入、施設内研修や委員会活動を活発に行うことにより、「ユニットケア」は飛躍的に推進されました。

食事の面ではユニットの特性を活かしてユニット炊飯を取り入れており、栄養課長を中心に、1年程前から「ユニット配膳」の実現に向けて準備を進め、いよいよ今年度スタートする運びとなりました。食事をはじめとして、ご利用者一人ひとりの「その方らしい暮らし」を見つめ、今日に至るまでたゆまぬ努力を重ねてきた特養スタッフを誇りに思います。

ふぁみいゆ行田には、他に在宅部門としてショートステイ、ケアプランセンター、デイサービスセンター、訪問介護事業所等がありますが、これらの事業所においてもそれぞれの課題を抱えながら一步一步改善に努めてまいりました。在宅部門では介護保険の改正を受けて、「地域の高齢者の皆様に可能な限り住み慣れたご自宅で自立した生活を続けていただく」ことを共通の目標として、一貫したサービスを提供できるよう、在宅ケア課長を軸に更なるレベルアップに努めております。

今後は、この10年間で培ったものを活かし、施設内に留まらず、老人福祉の拠点として地域福祉のサービス向上に努めてまいりたいと思います。

地域の皆さまに「ここにふぁみいゆ行田があってよかった」とおっしゃっていただけるよう精一杯頑張っておりますので、どうぞ引き続きご指導ご支援のほど、お願いいたします。



ふぁみいゆを支えるスタッフ

総務課

総務課長 青木弘美



総務課はふぁみいゆ行田の表玄関に面した位置にあり、業者の方を含めて様々なお客様の対応などが職員に求められます。

来訪者だけでなく、間断なくかかって来る電話対応も神経を使う仕事です。そのほか、当然のことですが、本業の予算、決算、介護保険利用料の請求（特養・短期入所・ケアプランセンター・デイサービスセンター・訪問介護等）、日常の金銭の出し入れ、給与関係・福利厚生、経理、勤務形態の管理、物品管理、発注購入、

環境衛生の管理、など多種多様です。

どのように、多忙の最中であっても、「利用者様一人ひとりの人権と尊厳を守り満足度を追求します」というふぁみいゆ行田の理念に基づき、これをすべての来訪者に当てはめた接待を心がけています。

総務課事務職員は笑顔でこうした接客を実践しながら、経理やシステム管理、労務管理等それぞれ専門分野の能力を発揮しあい、バランスよく仕事が出来ています。

介護保険制度は改正に改正を重ね、10年前と比べて厳しいものに様変わりしています。施設が今後も順調に運営されるためには、先を見据えた経営が求められます。私たち総務課職員は、常に時代の変化を読み取れるよう学習し、施設長とともに利用者様の処遇の向上に努めてまいりたいと思います。

また、総務課に属する「介護サポート隊」を結成し、環境衛生、(施設内、外の環境衛生) 支援学級生徒の受け入れ、備品管理、イベント補助、その他、仕事内容は多岐にわたりますが、すみやかな対応を目指しています。



介護サポートスタッフ

看護課

看護課主任 鈴木由美子



看護課は施設開設以来、施設内診療所としての役割を果たすべく日々の職務に励んでおります。主な仕事は、利用者様の健康管理です。

利用者様が健康を維持し、安全に安楽に日常生活が送れることを目標としています。日々の生活の中で体調の変化に早く気付くことが病気の早期発見につながります。日頃から介護課と連携しながら、血圧、体温の測定、身体の観察や表情の視診を細やかにを行うことを心がけています。

また、医師との連携も大切です。定期的な内科の往診、皮膚科、歯科の往診があり、看護課を中心に診療介助を行い、病気の早期治療につなげています。ふぁみいゆは、病院ではないため、高度な治療はできませんが、過度な制限のある生活をする必要はありません。できる限り、ご本人の意向に沿った生活ができるように、サポートをしていけたらと思います。

これからも利用者様の生活が安全に安楽に過ごせますよう、看護課一同力を合わせてがんばっていきます。



ふぁみいゆを支えるスタッフ

施設ケア課 - 穏やかな看取り

施設ケア課長 金子正子

平成21年より、お看取りに取り組み、今年で7年となりました。ふぁみいゆ行田で最後を過ごされお別れした方々からは、たくさんの貴重な体験を頂き職員一同感謝の気持ちでいっぱいです。



時代と共に高齢者に対する死との向き合い方が変化して来ています。最近では、様々な延命治療を選択することから、死を自然に迎える意向へと始まり始めていることから、施設でのお看取りの役割はますます重要となってきました。私としても、一人ひとりの最後を大切に、ご家族様と共に「安らいだ気分、安心できる場所」となるようお手伝いをさせていただき、穏やかな最後を過ごせますよう、また、穏やかな最後にご本人が体験すると言われる不思議な現象の「お迎え」「夢枕」が、更に穏やかな死へのプロセスに繋がっていくことを願っています。

生活相談室

生活相談員 大熊裕子

生活相談室は、相談員2名、施設ケアマネ2名の構成です。業務は

- ①入退所に関するもの
- ②入居者のケアプラン作成
- ③カンファレンスの開催（利用者様のケア方針についてご家族、介護士、看護師、栄養士等で話し合う会議）
- ④ボランティアの受け入れ
- ⑤施設行事の企画、推進実行
- ⑥ご家族への連絡窓口
- ⑦他職種連携のための調整

など様々なものがあります。

特に大きな行事については、多くの職員の協力と助けがあって取り組んでいくことが出来ると日々実感しております。

ご利用者様には安心して過ごしていただけるよう、ご家族様には信頼をしていただけるよう、地域の方には身近な存在になれるよう、この協力体制でこれからも励んでまいりたいと思います。



栄養課 - 食べる楽しみ

栄養課長 管理栄養士 小澤まゆ美



「歳をとったら食べることだけが楽しみ」そんな利用者様のために「満足していただけるような食事づくりをしよう」と栄養課一同頑張っています。そのために下記の事柄を心がけて

います。

- ①旬の食材をとり入れ、味覚、視覚で季節感を味わっていただく。
- ②安全で安心して召し上がっていただける食事を提供する。
- ③まず美味しい食事、栄養的にバランスのとれている食事を提供する。
- ④変化のある食事、多様なメニューを取り入れ、楽しい食事を提供する。
- ⑤月ごとの行事食に力を入れ、多様な食事を提供する。

このほか、毎月選択メニューを設け、ご自分で選んだものを召し上がっていただく。ユニット毎にリクエストメニューを出してもらい献立にとり入れる。ユニット毎に誕生会メニューや外食メニューの実施。など、さまざまな工夫をしています。

これからも多くの方から「ふぁみいゆの食事はおいしいよ」と言っていただくために、力を合わせて頑張りたいと思います。

短期入所生活介護(ふぁみいゆショートステイ)

相談員 篠原澄子

ふぁみいゆショートステイは（定員10人）、短期間のご利用ができる施設です。利用者様は「ユニットまんさく」に宿泊されます。ご家庭から直接施設に来られますので、施設とのギャップを和らげるように気を使います。今後ともショートステイをご利用になり、地域の皆様にはできるだけ長く在宅生活を続けていただきたいと思います。



委員会の取り組み

感染症対策委員会

鈴木由美子



感染症対策委員会は看護師が中心となり毎月会議を持ち、活動しています。主な活動は施設全体への感染予防対策の周知徹底と万一感染症が確認された際の速やかな対応、蔓延防止に努めることです。

年間を通し、予防対策に取り組んでおりますが、特に春、夏期は食中毒・水虫、冬期はインフルエンザ・ノロウイルス感染に注意し、感染防止対策を強化しております。今後もスタッフ一丸となり、利用者様の健康管理に努めてまいります。

リスクマネジメント委員会

金井陽平



事故発生の防止等にあって「事故防止安全対策委員会」が設置され、さらにこの委員会の取り組みを施設全体に浸透させ、実践に生かすことを目的としてリスクマネジメント委員会が設置されています。メンバーは介護職員で構成されています。

①楽な姿勢で座位を保つ、楽な姿勢で寝る。ポジショニングなどを学ぶ。②福祉用具の正しい使い方及び管理について知る。③虐待防止。などを年間目標とし、専門の講師に学びました。虐待についても話し合う中で、意識の向上が見られ、利用者処遇に反映されています。

衛生委員会

地域包括支援センター 保健師 小沢めぐみ

衛生管理者の職務として、

- ・健康に異常のあるご利用者様への対応や衛生教育
- ・健康相談と作業環境整備
- ・衛生上の調査並びに改善
- ・負傷及び疾病等の統計
- ・衛生日誌の記載等職務上の記録の整備

など、各フロアーの定期巡回を行なっています。改正労働安全衛生法に基づき、当施設でも今年度よりストレスチェックを実施します。

これからも、身体的・精神的な健康管理を委員会で話し合い、よりよい業務が遂行できるよう努力したいと思います。

事故防止安全対策委員会

千葉郁子

介護サービスにおいて、ご利用者様が安全で安心して生活できるよう、安全対策を図ることを目的として、年3～4回この委員会を実施しています。具体的な活動内容は、ご利用者様に対する事故（転倒、誤嚥、誤薬、異食、その他）を防止するために、事故の発生状況、原因、対策の検討を行っています。また、施設内での事故統計や他施設の事故事例を自施設におきかえ、現状や対応の再確認も行っています。

今後もこの委員会を通して、事故を未然に防げるよう環境の整備とご利用者様の心身状態を把握し、一人ひとりに合わせた介護を行うことにより、事故が軽減できるよう努めていきたいと思っております。



車いすにフットレスカバーをつけて足を保護

排泄委員会

荻野智久

排泄ケアは利用者様の尊厳（心と身体）が如何に守られるかを問われる大切な分野です。

排泄ケアは職員個人で行うことが多く、ケア技術の向上やケア技術に差がなくなるようにパットメーカーに依頼し年2回パット座学研修、年6回のユニット巡回研修を行っています。排泄のプロから直接技術を受け、日頃の排泄ケアの疑問点等を解決しています。最近では側臥位のままで排泄を行う技術を習得しました。

皮膚トラブルを防ぐことも排泄委員会の大事な役割です。排泄時には利用者様の皮膚状態を観察しやすいことから、排泄物が皮膚に触れる前に職員が目線で皮膚保護剤を塗布したり、また尿の吸収率が良く肌にやさしい紙おむつを使用することで皮膚トラブルは確実に軽減しています。

今後もケア技術の向上に努め、ご利用者様に快適に暮らして頂ける排泄ケアができるように排泄委員が中心となって活動していきます。



委員会の取り組み

入浴委員会

小林政裕

入浴委員会は年間を通して次のようなことを念頭に活動しています。

- ①毎月季節を感じるイベントの計画
- ②利用者様とともに職員も一体となって楽しむサービス
- ③リラックスしてもらうこと、安心して入浴出来る雰囲気作り

平成 27 年度の活動

- (1) 月ごとに季節感のある本物の果物や酒、入浴剤を楽しんでいただく。
- (2) 「足湯」の実施。「足湯」は利用者様ばかりか職員まで楽しんだイベントでした。「気持ちいいよ」という言葉と笑顔がたくさん生まれました。
- (3) お風呂場の前に職員手作りの看板を立てました。季節感のあるイラストをあしらった看板は利用者様に好評で、「今度はどんな看板かなー」と楽しみにしておられました。
- (4) リラックスして安心して入浴できるように、目隠しフィルムを貼ったり雰囲気を変えたり工夫しました。



入所判定委員会

大熊裕子

入所判定委員会は、入所ご希望の方の優先入所順位を決定する委員会です。

毎月 1 回開催し、施設長やケア課長、栄養課長、施設ケアマネ、看護師、介護士などに加え、公平性を保つため外部から第三者委員のご協力をいただき、一人ひとりの生活や身体状況による介護量、緊急性、家族様の介護力等を検討させていただいております。

施設入居は要介護 3 以上の方と言われておりますが、要介護 1・2 の方でも、お一人暮らしの方や著しい認知症状がみられる方、家族様の状況により協力が見込めず在宅生活継続が困難な方等も、検討の範囲とさせていただきます。

当施設の入居をご希望頂いたご本人様、家族様に感謝を申し上げ、その方が生活するのにふさわしい場所であるかを常に考えていかなければならないと実感しております。

食事委員会

鈴木真理

「いただきます」

「ごちそうさま」

のご挨拶の度に、利用者様の笑顔が見たくて私たち委員会は活動しています。

食材の硬さ、切り方や味付け等を利用者様の視点から考え検討しています。また、特養ではユニットという特徴を生かし、各ユニットでの炊飯を行っています。

献立についても、栄養士と相談し、セレクトメニューやリクエストメニューを取り入れ、利用者様の嗜好を聞きながら、楽しめるものになるよう努力しています。

生きていくための源は、“おいしい食事”。利用者様に美味しいと言って頂けるように、今後も活動していきたいと思ひます。



拘束虐待防止委員会

施設ケアマネ 伊藤久美子

拘束虐待防止委員会は、ご利用者一人ひとりの人権と尊厳を守り、満足度を追求することを目指しています。

定期的に会議を開催し、当施設においての現状の報告、他の施設の事例等を取り上げ、施設全体の活動に生かしています。

いろいろな職種と連携し、一人ひとりに合わせた適切なケアを行うことで身体拘束を必要としない状態を作り出す努力をしています。その結果として、拘束ゼロの生活が出来ていることを誇りにしたいと思います。

日々のケアが利用者様にとって不快なものになっていないかと言うことを常に意識してケアに当たるよう、施設全体で取りくんでいます。

今後も安心して、ふあみいゆで過ごして頂くために努力していきたいと思ひます。

ユニットリーダーより

ふあみいゆ行田は、ユニット型（10人の居室が一つのユニット）になっており、10ユニットで成り立っています。ユニットは家庭そのものです。

さくらユニット 福地克弘

①身内に介護関係の仕事をしている者が多かったので、この仕事を選びました。

②さくらユニットでは、まず、事故なく安全に心安らかに過ごして頂けるよう気配りをしっかり行います。また、草花や野菜を育て、季節を感じたり、収穫の喜びを味わっていたきたいと思います。



はくれんユニット 持村由加里

①人と係わるのが好きでやりがいのある仕事でしたかったので選びました。

②日々のケアを通し、これまで以上の信頼関係を築いていきたいです。また、スタッフ全員が利用者様の变化や気持ちにすぐに気付けるユニットを目ざします。ユニットは家庭、笑顔を絶やさないように努力して明るい家庭にしたいです。

まんさくユニット 奥澤裕子

①祖父母を自宅で介護したことがきっかけです。

②まんさくは短期で利用されるユニットです。お出迎えをする度、利用者様が抱えている問題を少しでも理解し、心を開いて頂けるような介護をしたいと思います。また、レクリエーションを充実させ、楽しい時間を多くしたいと思います。



さざんかユニット 柳川 武

①将来的に大切な仕事だと思ったので。

②利用者様ばかりではなく、職員をも精一杯まとめ楽しく仕事をしていきたい。利用者様は比較的入所年数の長い方が多いので、安全、安心な生活をして頂だけるよう工夫したい。また、生活の中で洗濯物やおしぼりを畳むなどの生活リハビリをとりいれて行きます。

こぶしユニット 長谷川仁美

①友人の勧められて選びました。

②こぶしユニットの皆さまは意欲的な方が多く、イベントには率先して参加されています。一人の利用者様から「私はここに入れて幸せ」と言って頂きました。その言葉を聞いて私も幸せな気持ちに。全員の皆さまから「ここに入れて良かったよ」と言って頂けるようにケアをさせていただきます。



ユニットリーダーより

リーダーはどんな家庭を作ろうとしているのでしょうか？ リーダーに聞きました。

①この仕事を選んだ理由 ②どんなユニット運営をしたいか

ゆりユニット 長谷川亨至

①祖母の認知症発症がきっかけです。

②利用者様の笑顔、ニーズを引き出していけるように、また事故と怪我のないように職員一同努力していきたいです。



りんどうユニット 大森真由美

①人の役に立てる仕事なので!!

②利用者様が日々安心、安全、安楽に過ごして頂けるように“ほうれんそう”（報告、連絡、相談）をしっかりと行ない、チームワークを大切にしています。また暖かい季節は、外出、外食等を企画し、季節を肌で感じていただけるように取り組んでいきたいと思ひます。

こすもすユニット 鈴木真理

①身内の一人が介護を必要とする状態になって大切な仕事だと思ひました。

②利用者様の気持ちに寄り添い、喜びや悲しみ、不安をいっしょに分けあえるようなケアをしていけたらいいと思ひます。また、たくさん笑って楽しい生活をすごしていただけるよう努力していきたいと思ひます。



すずらんユニット 金井陽平

①家族が介護を利用するに当たって興味を持ちました。

②ユニットリーダーになって日が浅いので、前リーダーが熱心に取り組んできた外出や、様々なイベントなど踏襲していきたいと思ひます。メンバーと心をつなげてケアの向上に努めていきたいと思ひます。

ききょうユニット 加藤花織

①人と係わるのが好きで選びました。

②利用者様が毎日笑顔で過ごして頂けるように声かけし、信頼していただける介護職員になりたいです。一日一日の出来事から学び、丁寧な行動を行っていきたく思ひます。また、生活がマンネリになりがちなので、季節的な催しを行っていきたく思ひます。



暮らしを彩る年中行事

ご家族のみな様・ボランティアのみな様・地域のみな様に支えられ



お正月 - 門松は毎年手作りです。ふぁみいゆ隣の諏訪神社に初詣に行きます。



節分行事 - 甘納豆で豆まき。やさしいやさしい青鬼・赤鬼さん。ベットの方にはお見舞いを。



家族会 - ご家族様は全員参加。利用者様、職員のコミュニケーションが和やかに図られます。



七夕祭り（七夕フェスティバル） - ユニット毎に七夕飾りを製作し、ホールに飾ります。年々工夫が加わりユニークなものになっています。利用者様や職員が出来栄の良い作品に投票し、賞状と賞品が贈られなす。優秀賞や努力賞、その他の賞などももらえるので、大いに盛り上がります。



お盆行事 - お亡くなりになられた御霊が帰って来られるお盆です。多くの方が線香を手向け手を合わせていました。ご主人に、奥様に逢いたい。父母を恋いしく思ってられる方もたくさんいました。



総合防災訓練 - 行田市消防署員さん、行田市東部方面隊の皆さま、ふぁみいゆ防災協力隊の皆さまのご協力を頂き、総合防災訓練が行われました。いざという時駆けつけてくださる皆様のおかげで、心強い暮らしができています。

暮らしを彩る年中行事

ふあみいゆ行田の楽しい暮らしがあります。みな様 ありがとうございます！！



秋祭り（ふあみいゆフェスティバル）- 秋季に開催されるふあみいゆの一大イベント。ふあみいゆの庭は、利用者様、ご家族、ボランティア、職員、地域のお客様など300人を超える人、人、人で賑わいます。



敬老会 - 色とりどりの祝い着を着て、ご家族、お客様、ボランティアさんに盛大にお祝いいただきました。

クリスマス会 - コーラスあり、大正琴演奏あり、楽しくクリスマス会が催されました。サンタさんがすてきなプレゼントを配りました。



施設内研修 - 講師を務めてくださった松井歯科医院院長先生。定期的に口腔指導を下さっています。

嘱託医 漆原先生の回診 - 寝ておられる方はベットまで足を運んで診てくださいます。



機能訓練 - 木村理学療法士、桑原機能訓練指導員が利用者様の機能の維持向上に努めています。



ひな祭り - 寄贈された豪華な雛人形が、毎年飾られます。



暮らしを彩る行事

毎月催されるお楽しみ



生け花教室 - 毎月、榎本和子先生のご指導で季節の花を生けています。花材はたいてい施設内に咲いたもの。花は人の心を癒し、笑顔にします。この日は2階ホールに大勢の利用者様の笑顔があふれます。



お習字教室 - 毎月1回 大勢の利用者様が参加されます。松井美枝子先生のやさしく暖かみのある文字をお手本に、一生懸命こども時代に返って楽しい時間をすごします。



陶芸教室 - 微妙な彩色や窯入れは、横田講師におんぶにだっこの教室。いろいろな作品が生まれました。今年は地域文化センターの文化祭に出品できるほどになりました。



太極拳 - 鷺宮の「太極拳普及協会」から3名の講師（木原様、今井様、増田様）が来てくださるようになって7年経ちました。特養とデイの利用者様は一生懸命太極拳独特の動きを真似して体操をしています。



歌いましょうミニ集会 - 月2回の日曜日の午後、歌いましょう集会を催して下さるのは、2人のボランティアさん。1階ホールに30名以上の利用者様が集い、楽器なしの和やかな歌声が流れます。ミニ集会が始まって4年目になりました。



大正琴と歌いましょう集会 - 3人グループによる三つ葉会の皆さま。大正琴の合間に笑顔で語りかける杉山先生のトークが人気です。小林さんと河野さんのきれいな歌声にあわせて懐かしい歌を歌います。

暮らしを彩る行事

地域交流



ひぐらしの会歌謡ショー - 色鮮やかな衣装で、繰り広げられる豪華な歌謡ショー。日暮歌謡教室の生徒さんが毎月1回ご来所。もう10年間も続いており、この1月で100回を超えました。利用者様はそれはこの日を楽しみに待っています。



保育園園児さんとの交流会 - 毎月、年長児、年中児、年少児さんが入れ替わり交流に来てくれます。太田保育園から歩いて来所。冬でも靴下を履かない子供たち。歌ったり踊ったり、語ったり、一緒に手遊びしたり、利用者の皆さまは目を細めて楽しい時を過ごします。



小学生・中学生との交流 - 太田西小学校の生徒さん、太田東小学校の生徒さん、太田中学校の生徒さんが時々交流にきてくださいます。遊具を手作りしたり、ダンスや歌を披露して下さる訪問は、楽しいひとときです。また、ホームのことを勉強にこられる生徒さんに施設がお役に立てることも嬉しいことです。



善幢会の皆さま - 歌、踊り、笛、太鼓、どじょうすくい、たますだれ、何でもござれ、芸達者な芸人の皆さまです。



舞踊劇団若月の皆さま
歌あり、踊りあり、お芝居あり、楽しいひとときです。



行田うどん会の皆さま
毎年 おいしい手打ちうどんをご馳走してくださいませ。



神宮の皆さま



太田公民館オカリナクラブの皆さま - オカリナの素朴な暖かみのある音色に心がいやされます。「あんたがたどこさ」は、まりについての実演です。

事業所紹介

ふぁみいゆケアプランセンター

在宅ケア課長 野口清美



当事業所は、現在2名の主任介護支援専門員と3名の介護支援専門員、計5名で相談支援を行い、緊急なご依頼にもお応えできる体制を整えております。

メンバーの基礎資格である看護師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健士等を生かし、チーム力を大切にしております。また介護保険制度に基づき、「特定事業所加算」を算定し、日々事業所間の情報提供や他職種との連携を図り、ご依頼

いただいたケースは困難な事例であってもお断りすることなく支援を続けています。

平成28年度から新しい介護予防・日常生活支援総合事業が始まります。「いつまでも住み慣れた地域でその人らしく、安心して生活を送ることが出来る」をモットーに、地域との結びつきを大切にされたケアプランの作成に努めています。

今後も利用者様の意思及び人権を尊重し、中立公平な立場でサービスを調整し、可能な限り利用者様の能力を引き出し、自立した生活を営むことが出来るよう支援して参りたいと思います。

ふぁみいゆ訪問介護の役割

サービス提供責任者 生沼久美子

ほとんどの高齢者の皆さまが、いつまでもご自宅で暮らしたいと望んでおられます。訪問介護はそのためのお手伝いができる大事な要の仕事であると誇りに思っています。

ケアマネの皆さまから、「地域の要介護高齢者の方が、買い物や通院に連れて行ってくれる人や車がなくて困っている」という声があり、それを受けて、新たに移送サービス「自家用有償旅客運送」に在宅部門で取り組むことになりました。

介護保険では賅えない隙間の部分をも含めた支援が訪問介護の役割だと思っています。

ふぁみいゆの介護は家庭的なやさしい介護がモットーです。「その家庭的な介護を出前サービスしましょう」が管理者の口癖です。今後も訪問介護職員一同、精一杯やさしい介護、家庭的な介護を提供し、地域の高齢者の皆様の自立生活をお支えしていきたいと思っております。



行田市地域包括支援センターふあみいゆ

管理者 石川 千代美

平成 24 年 4 月、当法人瑞穂会が行田市より地域包括支援センター業務を受託し、5 年目を迎えました。

保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士がそれぞれの専門性を生かしながらチームを組んで高齢者の総合相談を行っています。また、介護保険のサービスを利用される方を中心に支援させていただく介護支援専門員も新たに加わりました。

担当地区の高齢化率も年々高くなり、85 歳以上の高齢者の 4 人に一人は認知症と言われているなかで、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増えています。

高齢者が住み慣れた地域で安全・安心に生活できるように様々な支援や事業を行っています。



介護者教室（楽ちん介護）

保健師を中心に介護者教室を年 2 回、地域で行われているサロンにお邪魔して健康に関する講座や、認知症予防についての講座等を積極的に行っています。



家庭で起きる事故や怪我の応急手当など行田消防署の方と学びました。



ベットから車いすへ楽に移乗する方法を理学療法士の方と学びました。

はあとカフェ開催

認知症や認知症の方を介護されている方などどなたでも参加できる「はあとカフェ」を月 1 回開催しています。



地域支援ネットワーク会議

社会福祉士を中心に、地域ごとに民生委員、地域包括支援センター相談協力員、行田市高齢者福祉課、社会福祉協議会、センター、地区によっては自治会の方と一緒に地域支援ネットワーク会議を定期的に開催しています。

支援を必要とされている、あるいは今後必要となるかもしれない高齢者の情報を交換、共有し、また、高齢者虐待や成年後見が必要な高齢者のご相談も、他機関の方と連携し行います。

平成 27 年度新規相談件数	
忍 地区	98 件
埼玉地区	88 件
太田地区	65 件
合 計	251 件

平成 27 年度総合相談件数 (延べ数)	
電 話	758 件
来 所	67 件
訪 問	526 件
文 書	7 件
合 計	1,358 件

主な相談内容
施設を紹介してほしい
老人世帯で困っている
急に体調が悪くなった
入浴が出来なくなった
家事ができなくなった
買い物が出来ない
ごみが出せない
食事が作れない
福祉用具について
住宅改修について

地域で介護・福祉・保健・医療に携わる地域の方々、ボランティアの方々にたくさん支えられ、地域に根ざした事業を展開しています。今後も地域の皆様とともに歩んでいきたいと思ひます。「スマイル・スマイル・スマイル」ご利用者もご家族も支援している皆様が笑顔になれる支援を目指します。

利用者さまのニーズを充足させるデイサービス

ふあみいゆデイサービスセンター主任 河野真也



デイサービス スタッフ

介護保険制度が始まり、16年が経過します。ふあみいゆ行田も10周年という節目を迎えることになりました。

デイサービスセンターとしましては、記念すべき節目の年であり、介護保険制度の変化の年でもありますので、職員一人一人が時代の変化に対応して行けるよう、チーム力を高めていきたいと思ひます。

また、個々の利用者様のニーズやそのご家族様の安心感が充足されるよう、業務の見直しやサービスの見直しを継続的に行って行きたいと思ひます。

今後ますます多様化してくると思われる地域ニーズに柔軟に答えることの出来るデイサービスセンターとして、この地域で頼られる存在になれるよう邁進して行きたいと思ひます。

デイサービスセンターの一年



初詣 - 行田八幡神社へ初詣。年初めは初詣から始まります。



節分 - 赤鬼・青鬼の登場!! 悪い邪気を追い払う鬼に利用者様は大喜びです。



お花見 - 古代蓮の里でお花見。皆様お花見や外出はたいへん喜ばれます。



夏祭り - 手作りの豪華なおみこしを担いで。カラオケも盛り上がりませす!!



童心に返ってヨーヨーつり



トウモロコシの収穫

地域から頼られるデイサービスを目ざします

またデイに来たい!! 楽しい行事で盛り上がります!!



敬老会 - サービス精神旺盛な職員が盛り上げます!!



クリスマス会 - おみやげをたくさん持ってサンタクロースの登場!!

生活の中で楽しみながらできます。

- ◆ 機能訓練
- ◆ 作る喜び
- ◆ 食べる喜び
- ◆ 学ぶ喜び (毎日脳トレ)



料理 - 料理は楽しい。食べるのも楽しい。すいとん、冷や汁、どら焼き、たこやきなど。こねたり切ったり、焼いたり煮たり、昔取った杵柄です。



機能訓練指導員とリハビリ体操



運動会 - 運動会ばかりではなく、紅白に分かれて競うゲームは皆さん大好きです!!



フラワーアレンジメント

安らぎの時間 - 指圧の先生や整体の先生から施術を受ける時、利用者様は「至福の時」とおっしゃいます。また、ウォーターベットも人気です。お食事が終わると、お好きな場所で(ベットやソファ、畳の間など)思い思いの場所で寛がれています。ご自宅と同じように寛いでいただけるよう配慮しています。



ひざかけ作り
一つのを皆で仕上げます。今日は私が編みましょう。



指圧・マッサージ師 久保田先生 - 久保田先生は、ギターを弾きながら歌を披露して下さることもあります。



整体師 榎本先生

平成 28 年 3 月 ご利用者状況			
要介護度	男性	女性	合計
要支援 1	1	5	6
要支援 2	3	12	15
要介護 1	3	19	22
要介護 2	6	14	20
要介護 3	4	9	13
要介護 4	1	3	4
要介護 5	0	0	0
総合計(人)	18	62	80
男 : 女 = 27 : 73			

社会福祉法人瑞穂会の歴史



社会福祉法人瑞穂会 役員

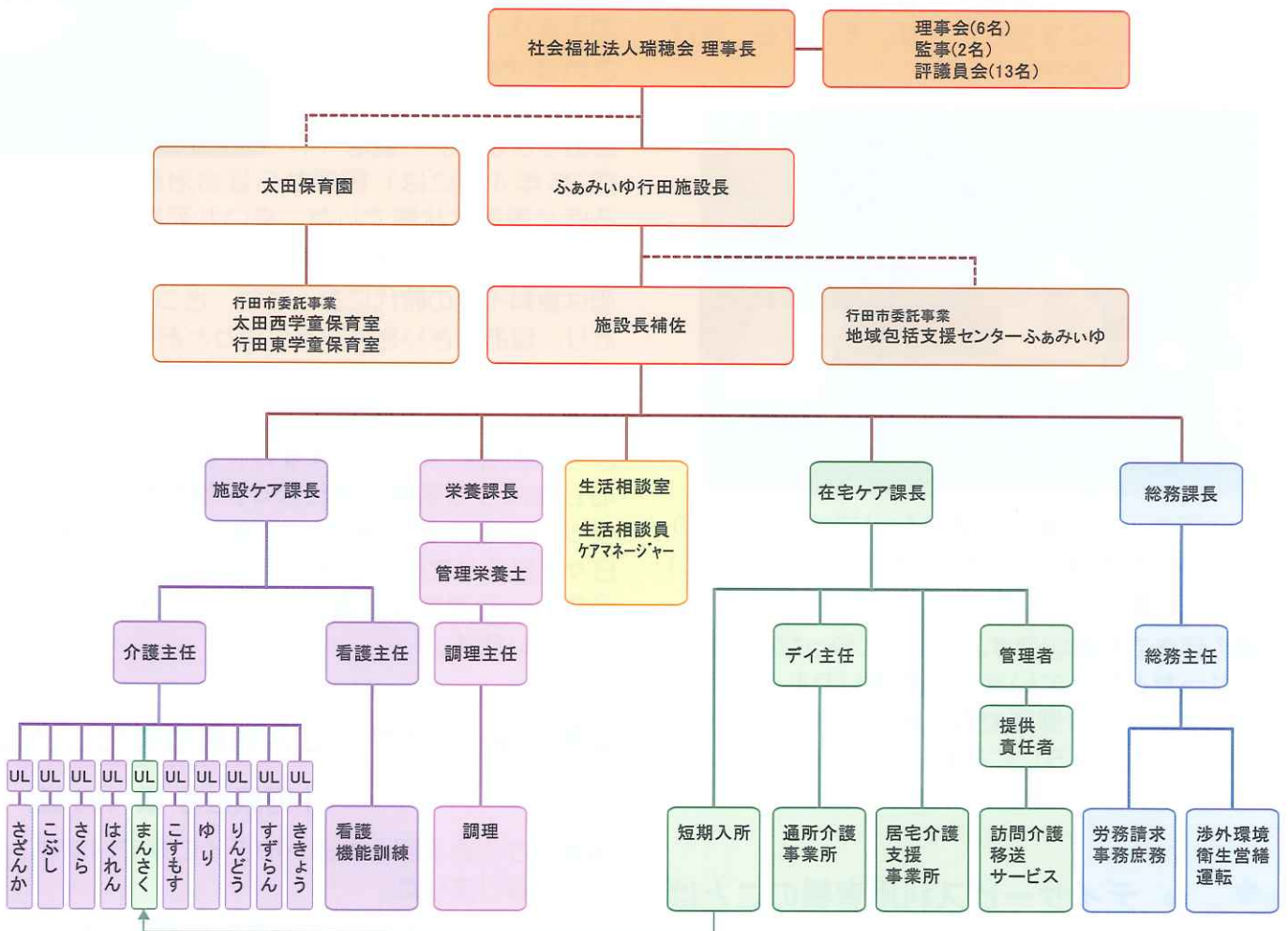
社会福祉法人 瑞穂会 役員 (敬称略)

前列左から	後列左から
運見弘一	小嶋素志
柴崎泰治	平社正俊
平社輝男	新井三郎
小嶋悦雄	横田 純
小嶋敏子	横田克行
藤間信幸	橋本春雄
松井 隆	新井敏文
	栗原基安

昭和 45 年 3 月 12 日	社会福祉法人瑞穂会認可
昭和 45 年 4 月 1 日	太田保育園 開設 (定員 60 人) 現在 定員 120 人 昭和 47 年 10 月 1 日 (定員増 90 人) 昭和 51 年 11 月 1 日 (定員増 120 人)
平成 18 年 2 月 1 日	介護老人福祉施設 ふあみいゆ行田開設 (定員 90 人) 介護保険事業所番号 1173700442
平成 18 年 2 月 1 日	老人短期入所生活介護施設 ふあみいゆショートステイ開設 (定員 10 人) 介護保険事業所番号 1173700459
平成 18 年 2 月 1 日	居宅介護支援事業所ふあみいゆケアプランセンター開設 介護保険事業所番号 1173700434
平成 18 年 8 月 1 日	老人通所介護・介護予防適所介護施設ふあみいゆデイサービスセンター 開設 (定員 15 人) 現在定員 30 人 介護保険事業所番号 1173700509 平成 24 年 4 月 6 日 (定員増 30 人)
平成 24 年 4 月 1 日	行田市地域包括支援センターふあみいゆ 行田市より受託
平成 24 年 4 月 1 日	太田西学童保育室 行田市より受託
平成 26 年 5 月 1 日	ふあみいゆ訪問介護 介護予防訪問介護 開設 介護保険事業所番号 1173700814
平成 27 年 6 月 18 日	自家用福祉有償旅客運送者登録証取得 (ふあみいゆ移送サービス) 登録番号 関埼福 316 号
平成 28 年 4 月 1 日	行田東学童保育室 行田市より受託

社会福祉法人瑞穂会 組織図

法人組織図



UL: ユニットリーダー



月洋会の皆さま

施設内を彩る絵画

施設の玄関を入るとすぐの廊下に、月洋会(行田市の画家さんグループ)の皆さまのご協力で、素晴らしい絵がたくさん掲げられています。多くのお客様から「ふあみいゆは、画廊のようだ」と言っていただくことが誇りです。花や野菜や果物など、親しみのある素材の絵に心が癒されます。

この絵は年に数回掛け替えてくださるので、常に新鮮です。会員さんは、歳の暮れになると施設に1枚ずつプレゼントして下さいます。順次利用者様の居室に飾らせて頂いていますが、ふあみいゆの宝物になっています。

利用者様のことば

前島喜代様（100歳）

私はふぁみいゆ行田に来て6年目になりますが、ここで楽しく生活をしています。

一番楽しみなことは、時どき家族が面会に来てくれることです。次は事務所に遊びに行き、犬のチャックを抱っこすることです。それから、生け花も習字も楽しみです。



私は今年の7月で満101歳になります。去年の9月には行田市長様がわざわざお祝いに来て下さいました。名誉なことです。

介護の皆さまも親切です。ここにごやっかいになってよかったと思っています。欲張りかもしれませんが、あと何年か健康で長生きしたいと思います。みなさんよろしくお願ひいたします。

デイサービス利用者様のことば

落合すみ様（89歳）

デイサービスセンターが始まってすぐ、行田市下須戸から来るようになって11年目になりました。私が一番先輩だと思ひますよ。

ふぁみいゆデイで気に入っているところは、職員さんが親切で優しいところです。

歯が悪ければご飯はやわらかくしてくれるし、おかずも細かく刻んでくれます。職員の乾さんの歌を聞くのも楽しみ。お風呂も楽しみです。一日でも長くデイサービスセンターに通いたいです。



ご家族のことば

利用者家族 松本弘明様

月日の流れるのは早いもので、母（94歳）がふぁみいゆ行田に入居して来る4月25日で10年目を迎えます。

これまで楽しいことばかりではなく、病院生活も2回ありました。一度は（平成26年4月には）医師から延命治療を尋ねられるほど重篤な状態でした。幸い九死に一生を得て退院することが出来、現在に至っています。

母は食料不足の時代にあっても、さつま芋をふかしたり、塩おにぎりを作ったり何かとおやつを用意して学校から帰る私を待っていてくれたものでした。

私は一人っ子、自宅が近いこともあり母に毎日のように面会に来ておりますが、私の顔を見ると安心したような表情を見せます。施設長を始め、スタッフの皆さまの暖かい介護を受けて充実した日々を送らせていただき、心より感謝しています。今後も一日でも長く親子の面会が出来ますように祈っています。



デイサービス利用者様のことば

小河原さき様（93歳）

鴻巣市から週3回ふぁみいゆデイに来ています。3年目になりました。

デイに来て何が楽しい？と聞かれたら、真っ先に「おしゃべりすること」と答えますが、同じくらい楽しみなのはお風呂です。お風呂は湯船からあふれるほど湯量が豊富で、清潔なことが大のお気に入りです。



おしゃべりの仲間はグループの4人です。手先が器用で紙細工や編み物を教えてくれる人、私の世話をやいてくれる人、いくらおしゃべりしても話が尽きない人など様々です。介護士さんがいつも同じ人たちをいいあんばいに並べてくれます。昼食もいろいろ工夫されていて美味しいです。

もうすぐ94歳。リウマチも良くなったし、このままデイに長く来たいです。

あ と が き

ふぁみいゆ行田 施設長補佐
小嶋敏子

「利用者の人権、尊厳を大切にしたい老人ホームを造りたい」

「アットホームな施設を造りたい」

という強い想いを抱き準備に入ってから数十年、口では言い尽くせないほどいろいろなことがありましたが、ようやく想いが実り、平成 18 年 2 月に特別養護老人ホーム「ふぁみいゆ行田」の設立を実現することが出来ました。



あれから 10 年、特養に加えて各種の事業を拡大、順調に運営させていただいていることは、お年寄り大好きな職員の皆さまの献身的な協力と、暖かく支えてくださる関係者皆様のおかげと感謝の他ありません。

私事ですが私は子どもが大好きで迷わず保育士職に就き、高齢者施設と合わせて 50 年以上まっしぐらに福祉の道を進んできました。

不器用にひたすら同じ道を歩くのも良いものです。平成 24 年 11 月、ともに歩んだ主人に瑞宝双光賞というご褒美を賜ることが出来ました。ちょうど金婚式を迎えることが出来た私たち夫婦にとって、重なったおめでたい出来事でした。

2 年前、施設長という重荷を降ろしてから、まわりの空気が一気に和らいだような気がします。

ふと立ち止まって、最初に抱いた想いは達成できたのだろうか？と考えますが、この記念号を通して「利用者の皆さんは、おだやかな雰囲気の中で、笑顔の多い暮らしをしているようだ」と感じていただけたら、「それでよし」としたいと思います。

今後とも関係者の皆様には変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

寧日のホームの暮らし窓辺には
さんしゅう四温の陽をふりこぼす

視界はるか黄金の稲穂波うちて
真白き鷺舞ふ施設のめぐり

うぐいすの声リズムよしやはらかな
ひかりの中にほぐれゆくもの



社会福祉法人瑞穂会
特別養護老人ホーム ふあみいゆ行田
ふあみいゆショートステイ
ふあみいゆデイサービスセンター
ふあみいゆケアプランセンター
ふあみいゆ訪問介護
行田市地域包括支援センターふあみいゆ

10th Anniversary

平成28年4月発行
発行責任者 藤井尚子
行田市大字下須戸75番地
048-559-4165
<http://famille-gyoda.com/>